

議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会 (H15年度第1回)	主催者 電気学会
日時	平成15年6月23日(月)	場所 古河電工 本社 特別会議室
出席者	田中(ISTEC) 前田(日立) 一瀬(電中研) 吉川(横国大) 石渡(東芝) 竹村(日本板硝子) 三村(古河)	
【概要】	・カーボンナチューブ(CNT)研究会を12月-1月頃に開催すべく、準備中。テーマはCNTの製造から応用までで、6人の講師を予定している。現在、講師の人選中。 ・新規の専門調査委員会として、超電導デバイス(基礎物理的な観点から将来発展しそうなテーマに絞って)の立ち上げを計画中。	

【議事】

(1) 第56回電気学会 A 部門研究調査運営委員会の議事報告

- ・ 役員交代
- ・ 研究会報告は HP、電子化
- ・ 電気規格調査との連携
- ・ 電気学会の学会について、寄付等の依頼
- ・ H15年度の活動計画(予定した新規調査専門委員会は未定案)

(2) H15A 部門大会テーマセッション

- ・ 8/26の午後に超電導の発表が7件
- ・ 参加者300名を目標

(3) H14 研究活動補助金

- ・ 支出なしで、3万円を返金した

(4) カーボンナチューブ研究会の企画

- ・ 12月か1月ごろ、午後から半日、東京での開催を予定
- ・ 参加費(資料代): 2000円、聴講者100名を予定
- ・ 以下の6テーマに絞る
 - CNTの概要と量産化技術(例えば、名大の篠原先生)
 - 走査プローブ顕微鏡への適用(例えば、大阪府大の中山先生)
 - MOSFETへの適用(例えば、富士通の栗野さん)
 - 電界放出ディスプレイへの適用(例えば、三重大の斉藤先生)

量子効果デバイスへの適用（例えば、産総研の横山先生）

燃料電池への適用（例えば、科学技術振興財団の村田さん）

- ・ 実行委員会として以下を組織する
 - （事務局：会場探し、印刷等）：田中、一瀬、三村
 - （デバイス関連の調整）：吉川
 - （燃料電池関連の調整）：田中
 - （走査プローブの調整）：前田
 - （ディスプレイの調整）：石渡
 - （CNT 量産の調整）：竹村
- ・ 田中委員長名にて、テーマの講演依頼を打診する（各担当で分担）
- ・ 7/E には講師の素案をまとめる

（５）調査専門委員会について

- ・ 半導体 / 光技 / 超電導の高速デバイス実装の調査専門委員会の立ち上げは進展していない。委員長の人選も出来ていないので、現時点では保留としたい。（田中）
- ・ 超電導デバイスの新規調査委員会の立ち上げも遅れている。企業の研究が縮小し SRL に集中しているが、大学では基礎的な研究が継続されている。基礎的なテーマで大きく発展する可能性のある
 - 超電導量子コヒーレンス利用の量子コンピュータ
 - 光電磁波相互作用（ミリ波）
 - SQUID 応用（基礎的なもの）を取り上げて、調査専門委員会を立ち上げたい。委員の人選等は 1 2 月中にやりたい。（吉川）
- ・ カボナチューブの研究会後に、面白そうなテーマが発掘されれば専門調査委員会を立ち上げる。

（６）ホームページの作成

- ・ 田中委員長が原案を作成したが、ソフトの問題で完成していない。電気学会の HP 担当の先生が交代された。遅れているが、新担当者のもとで本委員会の HP 完成を目指す。

（７）その他

- ・ 超電導導体線材の専門調査委員会の 6/10 の議事録報告。本委員会は H16/9 で終了し、技術報告書をまとめる予定。
- ・ 旧金材研の戸叶氏が東北大学に移られた。

以上

半導体 / 光 / 超電導の高速デバイス実装調査専門委員会の立ち上げは進展し

ていない。委員員人選も出来ていないので、現時点では保留としたい。(田中)

- ・ 超電導デバイスの新規調査委員会の立ち上げも遅れている。企業の研究が縮小しSRLに集中しているが、大学では基礎的な研究が継続されている。基礎的なテーマで大きく発展する可能性のあるものとして、

超電導量子コヒーレンス利用の量子コンピュータ

光電磁波相互作用(ミリ波)

SQUID 応用(基礎的なもの)

を取り上げて、調査専門委員会を立ち上げたい。委員人選等は12月中にやりたい。(吉川)

以上